文書名	黒田光之感状等書上　No.
所蔵者 住所・氏名	九州大学文化史研究施設
撮影年月日	昭和56年7月14日

福岡県文化会館

黒田忠之感状筆書上

此一巻 綱吉公御治世之頃之御國持武御家
ニも有之 草書ニて被成候[illegible]
御判物等も御座候処御下候て夫より[illegible]
御座候而御書写之天和年中[illegible]
[illegible]時 忠之様御在世[illegible]

九州文化史
ZB-1
24

九州文化史
ZB1

文化
(山際)
¥1500

権現様台徳院様御代松平大隅守殿父子吉田殿陸奥守殿
黒田甲斐守殿松平右京大夫殿江被下置候
御書之写共ニ而茂諸方御通り寄持申候
御自筆之御書と御座候
之候得共御座候得ハ其上又此度見候而者御書之旨
迷惑ニ存ニ付及御差図ニ其上ニ而相分候而者御為
御用御座候ハゝ御被遊候而取寄可被成候
兼而右之御座候ニ付会合之上被聞召候而御隠
三月廿九日
黒田甲斐守様へ
武蔵守
秀忠
貴意公御之判

太閤秀吉公御薨逝之翌年慶長四年去
前田利家卿病死之節　家康公を奉亡
風説有之候付大坂御登城之節増田長盛
之事　家康公江急度御申被致甲斐守早速之
承人（天下方）　家康公御館を守り羅致候得共
相催し候二人居　家康公御在城被成候
柳ニよし早付有之候得共御機嫌拝奉存候旨言
ニ而御感被遊甲斐守を御主殿ニ被成候家
御記ニ御書付ヲ御記被遊候則御城主被成宗

中家甲斐守ト候何茂御味方可致旨可申候文
加賀大納言利家ニハ伊賀国越中守等御於付
然ル甲斐守へ被仰付候　家康公ニ被仰
之後利家ハ又ハ子細有之候得共御免被成
御免被成候処被下候者則前年依而所守之虎
宅ニ御移被成ニ而夫より守護　御旅館
甲斐守相続仕候趣旨　家康公御感被遊候所
被為附候所甲斐守被仰渡候所
付而同年十一月　又家康公御蔵奉行被仰付

御自筆之御条数様扌

一筆令啓候、今度御往来御使被下、内府之御懇意之段
御書之趣、誠以忝存候、然者、貴殿御才覚ヲ以
万端御取成之段、被仰付候由、是又御懇情
書中難申尽候、殊更御懇切之段、御礼
無之候、随而御見舞之印迄、致進覧候、恐々

右之通ニ

猶々
三月廿六日
黒田甲斐守
〃〃〃
嶋津兵庫
義弘 御返報

太ハ慶長四年 家康公御饗之御館ニ
住主甲斐守殿ヲ以 家康公自余之族
大名とハ同じ並ニ被成候 此方ニ而者御懇ニ被成候ニ
殊ニ其ハ御館ニ罷出候ニ付 御用ニ而 宮寺
嶋津之御礼ニ而 琉球大閣御無之遊ニ被
申ス候 家康公を頼入候 申之段 御返事之

右様仕候ハ、候而御様子無之候へとも右之趣ニ而相
事ニ付申上候　右之段御尋ニ付此段申上候
可然様ニ御達可被成候　尚又追而可申上候
家老衆御連名之御様子、此移候而御披露　秀忠
御老中様より御書付を以被仰出

御目見之上御書付御渡候

御渡之儀ハ此度六人之衆ニ而相改被成候
御意之趣ニ而御渡被成候間此段申上候
御下知之通ニ可被仰付候

九月十日

道田甲斐守殿江　　秀忠御書判

武蔵守　秀忠

右之者共今度慶長之節ニ而土庭催之儀
御所ニ而静ニ致し候而御甲斐守へ被仰渡候
御付　秀忠公より御書付を以被仰出候

御書付

之儀ハ此度右之趣ニ而相済候
候之趣御所ニ而被仰付候ニ付
御書付を以被仰渡候

右之通

七月廿九日

黒田甲斐守殿　家康公御書判

右ハ御書ニ於て相認候者御刻ヘて関ヶ原之

節　家康公ハ之下ヶ御書之并御墨判

御本紙様拵

材料家御ニミ候水損ニ付何茂と御改之

之ヲ今写取差上置申候ニ付為後證如此ニ候

八月廿二日　家康公御書判

黒田甲斐守え

右ハ慶長五年　家康公関東御発向ニ下野国

小山之陣之節　秀吉公ハ已ニ薨去之後

不可思議石田治部少輔乱を起し候ニ付彼逆意有之ニ

付甲斐守ハ兼而被召出　証人等差置ニ付

大坂ニ候得共彼逆徒共甲斐守之妻子を

人質ニ取ル候処を致奇計ニ而

家康公ハ奥方を御預置被為候甲斐守致

忠義之人候得共右之奥刻　家康公御前ニ而

一 右者公儀ハ依御用先年上馬之足ニ而江戸相勤
在馬之儀者別段之儀ニ付候処御尋ニ付御答
上候ハ在馬之儀者御用ニ付又々被成下候
奉願上候得共右遠方之儀ニ御座候ニ付無是非
右御尋ニ付取調書上ケ候処其節御日限を以
前々ゟ此度之儀ハ其任ニ付而返上仕候御差図ニ付
御秘蔵之御龍馬御預ケ被仰付候ニ付御取扱御
大切ニ相心得候処御尋之上ニ而御馬之取扱方
害之無之様相勤候様在馬之儀ハ往古之通例ニ付

明者共ニ相定ニ付此度右申上候処追而委細ニ申上
在馬之儀ハ御手引ニ而被仰付候得共御定例之通
御用之外ニ預ケ置候処御勘考之上者在馬之儀ハ別段
御手当之儀ニ付御願申上候処御定例之儀ニ付
右之通御請可申上候前々御奉行所へ被仰付候
候得共在馬之儀御達ニ付無拠御用ニ付是迄之通
御入用之儀ハ先達而御取扱之儀ニ付右之段
先例之通御聞済ニ相成候様奉願上候以上
右之通今般之儀 宜敷御取計被下度

御書之写

御状拝披
去月廿三日大〻方公儀至于[illegible]〔〕寄〔〕候
垣目出度〔〕[illegible]〔〕候〔〕
候化[illegible]之〔〕[illegible]陣[illegible]
候[illegible]拝〔〕[illegible]明[illegible]
〔〕[illegible]為退〔〕人々〔〕候

八月廿八日　　恐々謹言
皆川山城守殿　御陣所
秀康御判

右慶長五子関東御陣之節　秀康公より
佐野[illegible]御書〔〕

御状拝披
今度於濃州表及一戦敵悉討捕候由
貴殿之事も[illegible]
三[illegible]大[illegible]
類[illegible]我[illegible]表[illegible]
候[illegible]
九月九日　　恐々謹言
秀康御判

黒田甲斐守殿　御陣所

今度関ヶ原御陣ニ付　秀忠公より御使者を以
被仰下候御書之写ニ而右之通ニ候御事細ニ候て
御書之写壱所ニ記之

御同意之衆御味方被仰付

御書付ニ而てらしてしおろそかにし
御座候而被存居候ニ付御請御申上候處
其外御在陣遣思召候而念入被成御尋候御座候
右御用ニ而御前江差上候へ共別而御上意御座候
かつし候

秀忠　御判

武蔵守

九月廿日

黒田甲斐守殿

御返

太閤ヶ原御陣ニ付　秀忠公木曽路御上洛以
御道中之下しる御使者之御在陣是ニ候年限
貴方之義ニ於而猶大形ならず御諚ニ御座候
し此義者御事ニ御守田中兵部大輔御味方
黒田甲斐守木曽向之衆大将合戦方御手柄
之合戦之節ニ付而黒田甲斐守一番ニ而御
御時之合戦方諸士手柄之由ニ候

扨御勢多分有之ニ付、是ニ而も諸将何れも御勤
申談、敵勢ハ大将之候ニ付諸将ト文間ケ原
御合戦之刻百田法ノ者共小関村ニ候と云者を
甲州勢宇之戦ニ而者結局敗軍仕候咲山ニ
引取り能々候得由し候　家康甲州勢を御催
ニ而弐万余人合戦ニ而勝利を得ニ而者
是を見て、荒木中納言并若川ニ而味方引入候
在陣致し候処、二十之今日も一戦を遂ケ申談し
付候石田ハ近衛将監へ被仰付候を以合

家康御出陣ニ而大将ハ秀忠中納言以下甲州勢等
も是ニ而味方ニ引入候処ニ、家康公之御陣へ
参り甲州勢等出張仕候ニ今度ハ大勢ニ而合戦可
致由申談し、羽柴秀吉ハ味方ニ引入候者共ニ
内々通じ候間、敵方ニ龍泉中納言、秀忠大軍
ニ而参り候ニ而、此度平国石見ハ中務少輔ニ而上甲州勢
を以井上兵部ニ而参り寺川村龍泉寺ニ陣取
中納言石川数正ニ而、中納言を追ひ味方
引取り候、甲州勢ハ凡そ人数三八大軍ニ候

一然ル所度々筑前中納言陣所江為平岡石見河村
越前ニ而申候ハ一人之者ニ付筑前中納言ハ
人質ニ付候ハ因思候て後又して了給を出候
公儀ヘ裏切ニ而忠節を致候様ニ被仰為人質
平岡石見守ハ甲斐守方へ指越し甲斐守方
も人質候間之所ニ平岡為人質筑前中納言
陣ニ在其後相渡し為人質河村大久保甲斐守
其ニ進せ候又指信し　家康公濃州赤坂江
御出馬なり九月十四日御着座ニ

よつて甲斐守方筑前中納言陣所松尾山へ登りた
承平岡河村六角以源兵衛を以人質相渡候様明け
御公儀ヘ可以裏切仕候意之儀申上候
候度々内々申付甲斐守家人[illegible]
其後赤坂ニ付筑前中納言之陣所ニ忠儀ニ
赤坂ニ陣ニ付申上候様ニ[illegible]
家ニ甲斐守ハ人質ニ仕候由ニ而申候
御公儀ヘ裏切筑前中納言ニ申合松尾山より
大軍ニ而押おろし一手ニ成候ニ御出有之候

一　右ニ付大手ヲ遁　いへ人数少くして敵ニ向ひ難く危ニ候
殊ニ中国之大将と云ふ者七歳者大将ニ而備成り難く候へハ
切々切腹仕候与又ハ引取申候儀ハ人々存候所ニ御座候
我等之儀ハ其後敵毎々人数を引分ケ乱入い申候而散
々ニ候得は取込ニ罷り故ニ前以甲州勢等手
御請取候而方々与通ひ合戦之時ニ大将として勝負
被成候而人数ハ申出旗本等申さるゝ所を寄手を勢ひ乱し候へハ
後陣之勢方合戦之時ニ当り亂し甚固ニ御座候
其外取其人数を以て引取りそは敵数多陣を張

長し又ハ所要番山ニ而敵大勢寄せて来候所
其上ニ陣を構へ之儀ニ付候て皆様々ニ付置候御座
任せ無き合戦致し方当無御座候故所々謀を廻し御備
候而者急ニ敵を防ぎ勝負仕候而甲州勢等と之
之候合戦には合戦ニ御勝利之由　家康
御意被成ニ而右之記申上候所ニ而敵を防候様ニ
入申候所之儀者付記
候方御書被下候　有之候ハ　而先年御取立之節
御書之次第付候ハ　合を記申候

一 付り関ヶ原合戦之後井伊兵部少輔本多中務
大輔両人ゟ如水江被申入候書中よく早速
今度者... 存候ゟ格別之御用候ニ存候て
此節之義御両人へも申達候て可給候

御状致拝披
御行候入念候之旨令承知候猶期後音候
恐々謹言

九月廿三日　　　　家康公御書判

清須侍従殿

黒田甲斐守殿

右ハ慶長五年関ヶ原御陣之後進献之鷹狩
... 家康
御座所ニ... [illegible] 家康
右御二ツ之御書... [illegible] 也

御状致拝披
書状之通今度之義... [illegible]
... [illegible] 今
... [illegible] 申候

九月廿四日　　　　家康公御書判

黒田甲斐守殿

先度者預示給　安房守方より委細申遣候

如仰御返事ニ申

御本状披見申候

此度も御念入示給　被成御中之儀ニ候ハゝ御気遣所

存候ニ付而以御上可申上候　遂ニ致承知候事

尤ニ候ハゝ可被仰付候　猶以任其意候

ことにて候へハ今度徳川殿関東へ御上洛候

御出陣も可被成候間　天下平均可申候

九月廿四日

安房守御判

黒田甲斐守殿　御陣所

大いに慶長今年関東御陣候　秀忠公其御陣も

御出陣之事ニ付其段可被仰候　其外天下之御事共

御本陣被仰　然ハ甲斐守方より御陣之儀申越候

今度之儀ニ付而御懇之所存及一戦被成候処

去年稀之御儀ニ候　御働之段可被仰付候

御手前之儀奉存候間　可申入候

九月廿八日

安房守御判

黒田如水

右ハ慶長五年石田治部少輔企謀叛候ニ付大谷刑
家康公関東江御下向之御留守ニ石田治部少輔乱起
之節人数ニ而大坂表江差向候処　家康公御帰陣之
上御本丸ニ御居被成候付御人数相渡候所今度之節又
御指引ニ候而石田方ニ而討死　名御直之以御意得候
家康公五十八歳ニ而御陣ニ付此度之御義
御尤ニ候付御用ニ付御見届之上御用之者ニ御座候
之九引ニ付御用ニ付御先陣之　家康公御盃を
御取被成候而御一統被遣御証文相渡御入魂之

要害を巡見ニ而御用ニ付被仰付候御人数之
者共ニ付御陣場之御用御当座取入之被仰付候
候ニ付而御用之御意之趣ニ付其旨御尋被下候
丹後守殿江被仰付候ニ付御事之節松井
佐渡守御差図之ニ而御使ニ付仕候事
之通御用ニ付御陣所ニ而人数差出
御用之ニ付此度九引ニ付御同様ニ被仰付
之ニ付御陣所江参候処御人数を差出候
朝鮮陣之刻　大閤公より御直ニ被成下候

兵し、今度東飛脚之旨由国之儀ハこれ列
又鎮之為ニ揚鉄炮之儀ハ下之者共ニ申付九月
九日ニ兵衛佐殿立ニ而信国ハ押詰し候ハ、人ハ之儀
ニ向し候ハ、候とも是悔し於申候而ハ申付候ニ付而
後国留主ハ悉く安全ニ候、ハ退之刻少人数ハ、
勢ニ而及一戦勢を討捕、打留、勢を以申
追入し、尤も直ニ其上之打亡し候ニ而上ニ
打捨申し、大内義弘九月十日ニ相催し若党衆
大友等也集り、其内ニ乗りし候ハ、人数とも

但し、けれハ早打を以申上候、然るに九州に於いてれ
如此候を被仰上候、然る処ニ今川殿ハ所へ参会有之
其上ニ及ふ處ニ無比ニ候ニ於テハ御免ニ被成と義弘と
一所ニ成る事を相成を引返し少弐も是を非と
大友之陣所ニ参りし、又大内方ハ、人数を是非と
而して先ニ九月十三日今川殿ニ大友衆ハ義弘
加勢之分にて陣取、打手ニ而小山常之丞ニ而大内
之衆も陣を立候ニ付、押寄し、勢を合せ多く
打れ、勢を追詰し、それより少弐之方へ勢を寄而討

捕へ付候田川与親松井佐渡守ニ言含め高山未
付候へ共出仕候て勝ニ加り高御し真吾
来り大坂陣下嘉一柳ト五文力して
呼義経源兵衛出仕を捕候得は
申さん　家康公へ御書差上候
主丈右衛門九列の所へ御しる後大坂を
則ちミて九列そ御納記し
付候申候出申候弥々其守備分出来
出来御在し候

御返紙控

高松様見ニ付表所ニ而文通仕候書状之通
今般大坂ニ而捕候得共
取計置

十月八日　家康　御判

如水

是ハ慶長五年　家康公より如水へ御書也
此方ニ而表所ニ而文作之ニ拾て右之記しこく
大坂ニて捕ニ候某信国長政様城を

書ニ従ひ来り候て城ニ籠り居ル内ニ陣を取り
安国寺ハ一番ニいたし又源蔵直将為前ニ陣ニ備ヘ
然ル所ニ青取リ多ク打取ル所ニ隆ノ勝ニ大取
二番手ニ付貴殿ハ若毛兵衛仕二番ニ而在之
三番ハ長所ニ御座候ニ而而ハ吉川ハ城より
罷りし又右様ハ主ハ居ル長ハ在候所ニ
野陣仕相待而其内青春山嶽ハ押寄セし
是ハ前ハ小金ニ候ハ候て毛利是ハ後守も右ニ懸り
いし様来り候て大切ニ若覚川出ハ小金ニ而城押付之

陳立之して城ニ毛利守先ニ立而明け退きし可打壊ニ
それし夫の蔵前ニ押通り頗る候へ八し名高き陣を
小早川隆景も此節ハ方より在て城ニ寄せ
黒田筑前守も水清ハ打出て打出し水井早田見ニ
中ニ立を合戦し又同国柳川城主立花左近将監ハ関ヶ
原軍ニ後在ハ居申ハ処肥前国ハ鍋島加賀守
人数ヲ出し及合戦候ニ付柳川ハ左近殿と相成
清正も同様ニ、東西共ニ人を会大分ニ合戦やゆる而
し立花殿ハ清正ハ加勢ニ付小水原ニ而鍋島

一　加賀守問合ニ付差出候通り留メ為之候所
因及入了ニ而御召出候ニ付御前ニ罷出候処御渡被成候
ニ押渡ニ相成　家康ニて御書付被下
之哉ニ付其後御渡相成候人ニ入ニ而左之通御書付

記

御奉紙横折

御達之趣ニ付御用候場所諸座ニ達
相渡候趣ニ付御使被出候ニ付御渡ニ相成
之事向ニて之ニ而存ニ付井伊守方へ備ニて候

右

十二月十一日　　家康御名判

日向守殿

此御書付ニ而御渡之記ニ付御通り候

御書付此御書付ニ付井伊守方へ御渡相成候

御座候以

御用向之儀ニ付紙半紙

一　右之中ニ而御渡之趣ニ付候人ニ相渡候

右之御書付之通り一通り相渡候

今般ノ儀又此度之段ニ付而以飛脚大久保相模守
可申上候萬端可被心得候
霜月十日
秀忠公御書判
黒田甲斐守殿へ
中納言より

右慶長十九年閏十月大坂御陣後黒田甲斐守ニ而以下是貴
殿前間ヘ披露之 此付帯入国之御暇之下時
秀忠公ヨリ下シ下サル御書也 右之御筆ニ而事ノ
通ニ而黒田ニ者甲斐守方ニ而預リ相改候旨紙ニ而ヨリ
申来候ニ付如此

御下知状様
今度大坂依不日可被渡海之所ニ遣候 別之入候者
當年以於在陣〻遣日限候得者有之相達之様ニ付
加多依頼〆可申し
四月廿日
家康公御黒印
黒田筑前守殿
右大坂夏之御陣之節松平又右衛門方より被遣者
於大坂相聞候得者御頼可有之由申来候處
御陣御用之欠ハ大坂表ニ而御用向有之

一、慶長五年閏之和之年ニ家康公合戦ス、天下

一、右御先手ニテ被仰付ニ付而黒田甲斐守長政被召出

候ニ付

朝鮮在陣之砌黒田甲斐守へ被下御書之写

御本紙相折

御使札被見申候、仍而其表之儀弥相替儀無之由、令満足候

其国之儀ニ付而、何篇も相談之上申付候ハヽ

付而ハ何も可被申候、弥御油断有之間敷候、猶期後音候

候、委細井伊兵部少輔可申候

十二月廿八日　家康公御書判

黒田甲斐守殿

右ハ文禄二年朝鮮と和睦相調候而家康公御返答ニ候

清正行長ハ朝鮮之王子ヲ生捕、小西摂津守ハ

朝鮮人ハ御返答申候　家康公より

御書之写如此ニ候

御本紙相折

此度海陸之働ニ入念之段、誠ニ神妙ニ候、大明

働所数万人討捕、敵退散之由、尤ニ候

猶々存寄ニ而御座候ハヽ御尋之上ニ而可被仰付候
当時十羽織又今迄入候者有之候ハヽ取調可申上候
御家中ニ而も右ニ付存寄之者御座候ハヽ可申出候
御名川ニ被仰付候ハヽ宜敷候

五月廿八日

御用御番　浅野内蔵助

浅野甲斐守殿へ

大之慶長弐年十二月朝鮮国へ被遣候節
翌年正月蔚山ニ籠城之節ハ御家中ハ
浅野左京大夫殿ニ付而浅野甲斐守殿と

其後御当家之人数ニ而我等当人共遣
生涯之頃蔚山ニ籠城之節如何ニ押付也
其頃慶長二年十二月二日蔚山ニ籠城ニ付
敵之大勢ニ而浅野甲斐守一手ニ而防候
其後蔚山籠城之節令敵ニ而浅野ニ而会甲斐守
一番ニ川を渡り浅野ニ而相渡候而敵大勢討取
敵ハ甚大勢ニ而同様御座候ニ付合戦致候
御城下之敵来追返し候而甲斐守
其後浅野川を越敵陣へ押掛候而陣中ニ

一、今度之関ヶ原合戦甲斐守手ニ而大将討取
其上大形ニ宗敗北仕候就中甲斐守早々被馳附
御帰陣之後甲斐守帰ニ付而御感之上
忠節之上ニ御座候由被申候由申候処御意候
元来石田慶長三年朝鮮ニ而ニ付

御書も是有之候也

御判紙写

これにて右之者共今度関ヶ原合戦之節人数ニ而も候
も其外之者ニも申聞候右之者御感之由申候

江権合戦之節二度之大功者ニ候間其之直勝
可候也

十月十七日　家康公御書判

黒田甲斐守殿

右者慶長三年太閤様薨逝之後朝鮮日本之
備前守…家康公天下之御為ニ被成候

御判紙写

恵慶大久保右衛門殿…之節甲斐守
申上候…

尚徳永法印・宮木長次郎可申候（以下四名）

十月十九日　家康公御書判

黒田甲斐守殿

右慶長三年朝鮮御陣御　家康公

より御書之写也

御書状之写

今度之儀、[illegible]其方[illegible]候処、[illegible]

御[illegible]之段[illegible]候、[illegible]

之[illegible]候、[illegible]

釜山浦より[illegible]候て[illegible]

可被申候、[illegible]

十月廿一日　家康公御書判

黒田甲斐守殿

右慶長三年朝鮮在陣之[illegible]

[illegible]

家康公より[illegible]御書[illegible]

右御書之写数代拾弐

以上

天和四年三月七日　松平[illegible]

右一冊じてこれ

朝鮮在陣之刻　権現様御出判之写差上候

被下候御写共二三通も御座候得共

一其後[illegible]之義[illegible]文久[illegible]

[illegible]御会[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八月廿八日

輝元　書判

秀政　書判

一

利家書判

家康之御書判

黒田甲斐守殿

右之御書ハ文禄弐年ニ朝鮮在陣之時被下候

よし

以上

一御筆之儀定而可為承知候得共[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一御筆之儀[illegible]

[illegible]

[illegible]

一其中ハ此方ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

一今迄[illegible]

[illegible]

一内府[illegible]

然ハ於不入念者、又若申聞候ニ付而此旨可有其意候
宰相殿・浮田備前宰相殿・安芸宰相殿へ申入、得其意
之方様子、御念之事ニ付、被仰出候へハ、令申候
ニて候へし

九月八日

輝元 書判
長政 書判
利家 書判
家康 御書判

黒田甲斐守殿

是ハ文禄弐年朝鮮在陣之時被仰出之写

急度以書状令申候
一 此表之儀、各申合人数之中ニ被申付候、諸侍之事不可有油断候
其之大河之所ニ而不可有越度事
一 ちかきニ而も、つなき之城ニ付而、此段可被申付事
不可有在陣之事
一 在々所々之陣取付置一不可、相加て可在陣事
一 大明人並朝鮮人等、又ハ其外之者共、相合く
被仰付候て、御集ニとりて可有其沙汰事
一 当表之儀ニ付、無油断、此書へ急度注進可有之候

一右之趣申遣候ニ付、今度当陣へ可有帰朝事
一家康并五人之衆、為御意得、羽柴筑前守・羽柴安芸宰相
被差渡候条、可被得其意候、御分国之儀無異儀
於中国ニ在之衆、如有来可被成御知行中務
御預諸奉行衆ニ至迄、各申談、下々迄不残
被仰付候、兵粮ニ至迄、御用意候て可有之候
恐々謹言

十月　日

輝元　書判

景勝　書判

秀家　書判

利家　書判

家康公御書判

黒田甲斐守殿

是者文禄弐年朝鮮在陣之時被下候御書

右御書物之写数三通

以上

天和四年三月七日　松平右衛門佐

右一冊ハ差上ル

[illegible]

[illegible]

権現様　台徳院様御代ニ　井伊兵部少輔　本多中務
大輔本多佐渡守より　黒田甲斐守長政
手ニ書状御到来分留守之所ニ而家来共
此節之[illegible]下之[illegible]其外[illegible]存候[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一　同八年廿三日　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　[illegible]
黒田甲斐守様　　　　　　　　　　　　　　　　井伊兵部　[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
一　[illegible]
[illegible]
[illegible]

一 此度御養君[illegible]被 仰出候ニ付[illegible]

一 宰相殿[illegible]御用[illegible]
[illegible]

一 如水[illegible]御用[illegible]

御用ニ不及候事

一 紀伊殿[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

日本[illegible]

別而[illegible]八幡[illegible]

[illegible]事ニ候

一 差当り御用無之、異国船渡来候節、何分[illegible]

[illegible]

[illegible]御用[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]御用[illegible]事[illegible]内府、

別而[illegible]中納言[illegible]

今[illegible]候

六月 井伊掃部頭 直弼

異国船之様

大宝元年より今年迄九百年余に成
但御代々異国と御通交[illegible]
[illegible]

一 日本之儀は開闢以来[illegible]
[illegible]
[illegible]
少もて之[illegible]

一 今般日本之儀[illegible]
[illegible]

一 同[illegible]
[illegible]
[illegible]

七月廿七日　　　　　　　　　　　井伊兵部少輔
　　　　　　　　　　　　　　　　　　直政判
　　黒田様人々御中

右之書状ニ付而御返事御書被遣候ニ
内府様自然別而御念入候ニ付而候、
何とも存候間、在々之儀被仰越候ハヽ可然候
　　以上
内々長政御入魂之段、何も別而御念之
様ニ候、就其内府様直ニ御入魂可然候
御取成可被成候、其御心得尤ニ候、

御書状令披見候、井伊兵部少輔・本多中務
御返事之趣、具令披露候、恐々謹言
　　八月八日　　　　　　　本多中務少輔
　　　　　　　　　　　　　　　忠勝判
　　黒田甲斐守様
太閤様御長政ニ付而内府様為御挨拶
先以御祝着ニ候
自然此中之様子ニ候ハヽ、御理可被成候
内府様へ入魂之段、御念被入候、
猶追而御内意御取成可申候

内々より何とそ文通致し候由ニて入御所ニハ何様も
候はゝ委細申上候て何分御伺可仕候へとも何分前
御沙汰

八月廿九日　　　　　　　安政判

黒田甲斐守殿　人々御中　　　　井伊掃部頭

去ル慶長年中より被仰付候処世間一同自然世中
之様ニ相成候ニ付而ハ此度諸家相互ニ騒乱を起
し候ハゝ不容易事　家康公以来御仁恵之
御趣意ニ相背候て可申哉と奉存候

被成御沙汰候得共何分御賢慮ニ而御差図被成候様
申上候様被仰付候恐々謹言

以上

一書付を以申上候自今以後安政年中被仰付候趣を以
一今般御用筋黒田甲斐守江被仰付候間何分可被申談
候事
一右表向之儀ハ大名之内重立候者江被仰付
掛り之者内府御盛被仰付候ニ付其段被仰聞候
抱之方ニも可有之候ニ付右之趣御頼申候事

一 科者被成悪事又は徒党之所業有之候ハヽ
其時之役人并五人組共ニ穿鑿いたし
可申出候尤見届不申候ハヽ存不申候共可
為越度事ニ候条此旨相守候様兼而可申
付置者也

九月廿八日　　　　　　在判

右御条目之趣堅相守可申候

右之通被仰出候間御領分村々へ為申
聞候所依而如件

一 切支丹宗門之儀ハ人不残相改寺請状取置可申候
一 今度被仰出候御法度之趣兼而不相洩様急度可相守
事
一 御法度之義并其外之儀共相背候者有之候ハヽ早速可申出事
一 火之元之儀昼夜共ニ入念可申付候事
一 此中相改候通村々之人数相違無之様可申付事
一 三之丸御蔵所ニ而当年御年貢米相納候
処見届可申事
一 男女ニよらす他所へ出候者ハ其所名主五人組へ相届可申事

一入山之儀願之　　本多中務大輔

十月六日　　大和判

上田水様当所

大宮寺ゟ之手より当御免之儀右之通り二付存

長々之事御座候、記ニ候

いつしか会津表之儀ニ付上ニ而段々被仰付候ニ付

御役人衆様へ御通し申上候所御承知ニ付右ニ付

一萬石ニ付ハ是迄之通り相違無之候様

被成下候様ニ付而御頼申上候

拙者共之儀も御目付衆之内々御内談被成下候ニ付

御用之儀ニ付御願申上候

播利芸　候しお安田中村ニ而内存候内之候し

所之儀は是迄之通り甲斐守殿より御頼ニ候

しかし乍ら右之通り御下し被成候ニ付御請仕候御儀

御座候

井戸出雲守

十月六日　　曲淵判

上田水様当所

是ハ京都御用ニ付御手当之儀存候二付而

此度京都御用之御取計御座候ニ付以上文書面御座

御座候ニ付全く是迄之通り相違無之候様

願之通り御免ニ付記ニ候

於江戸老中方より被仰渡候写

十月廿六日於御城内御奉行所ニ而御老中方以御書付

奉書を以被仰渡候趣、御感被成候

一 松平肥前守殿并鍋島甲斐守殿先達而

御請書之通、長崎表御警衛手当相勤候

処、当年御用差支之儀無之旨相届候ニ付

恐入候由ニ而御届之儀

一 長崎御番所之儀、如何程も御手当入念

一 御国許表之儀ニ付、御警衛筋相聞候ニ付

一 中国筋其外浦々江異国船渡来之節者御届可有之候

相勤候様被仰付候

一 異国船渡来之節、御手当之儀ハ御用向之儀、御三家方

依而御預所之儀ニ付、此度御府内

一 肥前守儀ハ利害得と相考、御警衛ニ付可申

く心得可申候

一 右之通評議之上被仰出候、尚又此上ニも

猶又何等之儀有之候ハヽ可申聞候

右之通

井伊兵部少輔

土井大炊頭判

上田水公

宛

一 是又当表ニ罷出候ハヽ、召捕吟味之上、急度可申付
尤此段ハ此方より申遣候ニ付、入用之分ハ其方ニ而相弁
追而申付候迄ハ、其所ニ差置、右之趣相心得候様可申付候
右之通ニ付、此段可被得其意候
右之段、其方ニ而も、右之内ニも可有之候ハヽ、吟味之上
御沙汰可有之、其節ニ至り候ハヽ、委細ニ
　　井上河内守
卯月十五日　　　出羽守判
家公へ申
是又当表ニ罷出候ハヽ召捕可申事

以之外之事ニ入折紙者礼不致候
一 右之段表ニ而吟味之上、何れニも可申付候ハヽ、其表
より申渡之儀ニ候
一 柳川表ニおゐて御役人衆御渡之一紙折紙ニ而差出
ニ付、其節ハ、早々可相届候旨被仰付候、尤
随分可為致候事
一 前々度々御尋ニ而、申上候趣御尋之通、御座候ニ付
右御役人衆ニ而も御用ニ付罷出、酒井作右衛門殿より
申候

一 甲割切リ候て今之甲割ハ指申候
内御免之儀ニ而無之者ニ而ハ無御座候一段
内府ヨリ追々ニ而御座候
一 溜甲割レにて之追々付候所々固メも相定候
てみりし承知申候
一 右之御役之何とも数之覚之書付之
承候何ヨリ無御座候
一 右式ニてハ右之ニ相成ニ追々書付之
御座候右之書付て届候 以上

霜月廿日　思按判
右之通水横 今日 於 忠倫
是も慶長之年より右之通り何様之
右之所之写数拾通
元和元年三月七日
右一冊しそ之八　松平土佐守

義照公 信長公 秀吉公御書并目録之写

今度御忠儀申上候、秀吉同心申候段、感悦無極

猶以以後可有入魂候、偏頼入候、弥可抽戦功

候而者可為一廉候、猶委細可申也

十月廿一日　　義照公

御書判

吉田右京亮とのへ

於伺之義て進発以後も於戦場走廻者抽忠節可守之 卅六
初手人質出事並右守戸冷守列右様之者之
之段可為也

九月六日

信長公

御朱印

当寺衆中へ

去月廿六日於河内両郡之頭見其合戦抽神妙以
従て勤戦功事当一人於戦場忠節可為也

五月六日

信長公

御朱印

当寺衆徒中へ

今度河内若江高屋籠城可守者候之処
該国之以後令満道断し候、月以後ハ出三之後ニ
中也以神妙以河内出城其成敗可令申付候
依て於其地之事当一人於其地可遂也

三月廿二日

信長公

御朱印

当寺衆徒中へ

所々三位進退今令才覚相違無之様可被
申付候、然者播州之者共へ申触候
小寺官兵衛尉別而馳走之段、人質之事
其元御手前以証人を差出申候、此上者
何方之様子も被相聞候て、其方人数
之事一段被仕置候て、猶以可申候也

十月廿日　　　信長

羽柴筑前守とのへ

将又小寺江進状候、如此可申付候、
然者其許之儀、別而相違無之様、其方
可相計候、然者返事次第、一段可申候
聞候、猶以其方馳走可然候

十月十六日　　信長

荒木摂津守とのへ

御存知之通ニて留守ニ候間手前之儀を
内々到可積共も遠慮候ハヽ可申候て
候し

六月廿三日　　羽柴筑前守
　　　　　　　　秀吉御判

小寺官兵衛殿
　　　[illegible]

別紙ニて[illegible]到而[illegible]衣[illegible]
[illegible]会[illegible]

義候ハヽ猶[illegible]申候　[illegible]ニて近々[illegible]
宜可[illegible]御[illegible]申候[illegible]

卯月二日　　筑前守
　　　　　　　秀吉御判

小寺[illegible]
　　[illegible]

[illegible]
[illegible]書中[illegible]
[illegible]

明後日打越候条、先勢申付候而可相越候
其元之儀無油断可申付候

筑前守

極月七日　秀吉御書判

蜂須賀彦右衛門尉殿

小寺官兵衛殿

へ

備前児島門之宇喜多人数被入候、其元堅固ニ
被申付、其之城丈夫ニ可申付候、人数

之段、三ヶ条之趣、近日可被差越候
普請等此方ニて入精可申付候

筑前守

二月六日　秀吉御書判

小寺官兵衛殿　御宿所

播東郡内福井庄内六千弐百石、岩見庄内弐千
七百石、伊保村之内千石、都合壱万石、別紙
目録有之、令扶助之候、全可有領知之状如件

従て請取可申候

天正八
九月朔日　　秀吉御書判
羽柴
竹田義治并森吉郎へ申ニ付候
其上尚以御意次第ニ候
事候之条御意ヲ以被成御判候

上田甚三郎殿

以上
揖東郡内壱万石事不付目録相副進之候
合て之頃知行領進之了請取可申候

秀吉御判

天正九
三月十八日　　秀吉御書判

上田甚三郎殿

目録　　揖東郡

一 千弐百六十四石八斗　　此郷
　　　　　　　　　　　　上庄
一 九百六十石　　鵤村上下
一 弐千九百十三石　　黒尾人庄
一 四千九百七石　　福井庄門

合之可有候

天正九 三月十八日

秀吉御判

黒田官兵衛尉とのへ

何列自道にてより者浅進以後勝弱之城へ
道にも相應て柾落諸列ふ成立てと入城にも
者共兵明るも自道様にも浅候而参候て
ここにてへ相残め被候ふ在城人々右合

自道様へ若為参りもしも可候

九月十一日 藤吉郎

秀吉御判

黒田官兵衛とのへ

書状令拝見候 浅野弾正少弼申其
何列 相様子を承候 右方へ之ら候 在城に
共に御相談 別而相談 精を進て
てもり候之て候

羽筑

九月十六日　秀吉御判

前田玄以法印殿

寺[illegible]之[illegible]候[illegible]人[illegible]其[illegible]下[illegible]
[illegible]候[illegible]
[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]

越前守

九月廿六日　秀吉御判

前田玄以法印殿

書中令披見候[illegible]一書[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

筑前守

十一月十日　秀吉御朱判

播州揖東郡内あかう村百石并除村之内
弐拾石合百弐拾石之所相添弐百石都合三百
石事可全永代令領知之状如件

黒田官兵衛殿

天正十三
十月二日　秀吉御朱判

黒田官兵衛尉殿

去月廿九日書状一両日中令披見候安国寺相越之

之利不苦候様子之和談之儀中略之候へく
候ハヽ大概所申届候ハヽ其元宿之ゆて可乗候、
可志國時者諸勢いたし可有其方ニ可取候
打果し候へよき候而諸事可任其方候
尚追而可申候也

十二月三日　秀吉御朱判

蜂須賀彦右衛門殿
黒田官兵衛尉殿

去十一月廿六日書状今日到来令拝見候披見之儀

本寺之儀、門跡[illegible]候、[illegible]此類以外之儀
可申[illegible]、然者御[illegible]候、一方明隙[illegible]以[illegible]
[illegible]、[illegible]表、押[illegible]而
[illegible]御[illegible]付置之[illegible]、[illegible]
[illegible]候而可申[illegible]、[illegible]

三月[illegible]日

筑前守

秀吉御判

[illegible]吉兵衛[illegible]

今度[illegible]表[illegible]

及一戦、[illegible]前数多討捕、此類以[illegible]
[illegible]二[illegible]所付[illegible]令[illegible]
[illegible]件

天正十一

卯月十六日

筑前守

秀吉御判

[illegible]

[illegible]、[illegible]以[illegible]
[illegible]件

大正十二　七月十八日

筆者　長谷川幸利

黒田喜壽之

合字數廿二　頁

秀吉公御書付大和大納言秀長書付之写

覚

一殿下被仰付候法度書之内何ニよらす被仰付候上ハ

請取来而不違乍万一違背之者ニ於てハ可申付者也

猶々可為曲事

一寺役ニ門前之者ニ至迄門前之者共ニ申付

乃て可為随分相勤事

一人数之在てハ其所中分迄其外之者として申付て

乃急ニ開城し要害ハ兵粮無之一時ニ可落入候と見へ
候事
一関八州人数出張候ハヽ惣而切取り城を取籠り
なるまじく候、是れ程に有る間敷事
一諸大名屋敷ハ皆空家ニ成候て丈夫ニ可在之候得共
力なく可被為相成候、然は兵粮并鉄炮玉薬ニ至迄
速ニ被仰付候事ニ候得は、殿下ニ至る迄に付候事
一関東ノ奉行衆之者、浪人其外ニ人ニ一人ニ人許之
兵粮の義ニ付、中国を始州迄も可被成候

又前ニ書て入候ニ於てハ可然候事
一ヶ様ニ因関八州三ケ国諸侯ニ被仰付候ハヽ大丈夫ニ可有之
由ニ存候、諸家ニも其上ニ役儀ニ付候て
しく合て可申候て可然候て可然候事
一人数ハ次第ニ可被成候、三万五万ニても可被成
勿論之儀ニ候事
一兵粮之義ハ京・大坂ニ而も兵粮又ハ鉄炮玉薬
以下不残被仰付候而御用ニ可相立候事
一[illegible]

一 たゝかひ之義隣家并之人令口論候て可申事

一 荒地ふさん之所ハ作らせ候て其土地ニ付候者ニ可遣候
作ましく候ハヽ毎年一ヶ之利承而用ゐ申ヘ
くはからふへき事

一 御分国中百姓以下何方にても当年分欠落候を
よせ置候族ハ荒地之儀ハ一段ニ可申付候
荒地之事八木相渡候ハヽ中国、蔵へも
きはめさせ候てきのとしは御下にも可当る
ハれ候事

一 唐国まても御征伐ニ付而兵粮米之儀ハ
其所之蔵へ可納置候ニ付而以蔵米
名主可申遣可為之事

八月六日

秀吉公
御朱印

お国ち
上田御跡
五奉行衆中へ

者申より下々者共に至まて申付置候通可相守

被為入候

一 麹元ゟ上洛元ゟ寄所荒シ候ゟ徒党之人

々も付立退候て不届之事

一 九州表之儀数年以来之も利分同前之務

其使請て相集り又ハ若党供廻之関所

之者不慎ニ而相止候而最早切候ハ大事成儀ニ而相

其方共ハ不届之付る候て可相守候事

一 其方抱下以後之儀先年ニ一書被遣候ニ付方へ

ろうて書付見て言も申事も是ノ可申之て

申候事

一 大借我等ヲ引ん候ハ、申遣候それ共相先ヶ引、

申付ル之共可成様ニ云ハ右御用ニ候事

一 其表ニ而被召抱候ハ申遣候而追ニ而可遣候而関所

八月十二日

表右之

御判

尚々被申へ

又〈追〉へ

当月九日之書状同十六日到来、披見候、然者
之儀者去十六日大島城之衆山中下野守事
一 垂井辺之衆相替人数取籠候由申越候、伏見
落城ニ付而、天下属手候事
一 人数遣之儀、先度も遣申候へ共、重而
之儀弥以相調候事
一 筑紫表之儀者、今日大坂より申来候ハ、
従大坂罷出小早川・吉川相談之上、先年人数被遣候
関東勢上方へ合戦相懸候て、言語道断候由申来候

一 三ヶ村参候付而ハ討果候、八幡大菩薩かも
相違有之間敷候事
一 西国之人数、先年も又其元長我部を初而罷上候て
其表相届村々付候事
一 当表之儀、九郎付、関東ニ至手寄之族
至所之事
一 其城之人数有之者、被召寄候ハ、可然候間、可申付
可被仰付候事
一 京之儀、近江之儀、廿三日ニ御使者を以可申候

可被成候様子迄ニて下り候事可有之候也

八月十八日　　在判　御奉行

安国寺

尚敬殿へ

薩摩屋入道へ

其方船ニて我船ニ而因薩州中ニ之方ニ衣服付申候

ておき候也

八月廿八日

在判　御奉行

尚敬殿へ

去年當秋ニ御礼ニ被遣候

一琉元琉球之両國之人當時者又被相頼候

門司并所當職ニ付而被仰付候ニ付當方

中琉球之丈夫ニ而付被相頼其段ニ人ニ而聞召

一琉球之両國御勤之内ニ而入手ニ成候者有之

其后ニ而当時者之様子ニ成申候ニ付当一ヶ年

一琉球之者ニ而者之人御勤之内ニ而一層ニ而

右者当琉球之人自分ニ而申上候ニ而唐人数相

能々入念候而可申付候二ヶ条ハ返々可然事
一 麹之取郡々ニ所開候事
一 鞍地ハ洞様不ニも無之者方より申くる事
ハ御下へ頭ゟ速ニ令遣置候で其人
数遣候ニ頭ゟ先候而御仕ハ宜候
も無之可為候事
一 隠居之者川様へ小早川ニ居候様可申付候
又御方も先ゟ其通ニ可申付可被申付候
之人衆也御扶持之儀具ニ被下候

如件也
九月廿八日　秀吉　御朱印
右同前
長曽我部へ
是又入道ニて
九月廿一日書状今日到来披見候
一 隠岐国居城之者共も中國にて任合三之在候
頭ゟ者共ニ相尋候所今度慶長ニ令候
て其方念之人数並日本国中安国ニ可申付候

今様会て秘れ候事付事

一 諸道寺色ときて文丈人賞候て候れ下ハ
之連歌京海内在て建之ハ所有しお家へ居り

一 円月安室にちくさ博りもちに候ええ候て候
候ハ候可まさせて候はるるまるに在りにて手唱
今度候ハはお御人やと博ニ三ケ所ハ所候在ま
早井ツ入金ニて前ま候はるるそれお心内通てある
月三花し花き早井もちし松手前早花をかけ
おあ別首ハ候は花実九ケ国ツ候よろしきよ

三花大ふお聖御ハ両月生て文候ほそるつけ
かる御とまて早井の着て別色と筆ハ候候
ゆ矢て矢両有られ文ハ四中行まるてこちら在候
武家てくるこしまか事

一 きり刀て出る一度をしよろしく又関所を候
しきて候しと何て歌ハめして衣服を越年んて
又れ果派在て事

一 在陳あるもしも又諸道寺知歌ハらし何て博ま二倍
おこし支候てこち両の歌ハ事にふあ新て春にめぐり

去りし徒路が味方にて見しと伺して其前を守り候へにいりし
とらけすとて候事
一 城より出でて兵多く残りの大名は法度府の番人余して
人を切りと候て囲法度府をあつかひ候へ名
称にこれと兵に大将より合ひ議ありて兵に
て候お法しより
一 城より出て兵敵は後手にて在る有人に告げて敵陣を
て鉄道へ敵より精兵に写しおきのく
あつかひ人数より金 敵城より中へ入迄て敵又一方へ
出でて二万人余りくして其上は兵法作
なきとも敵より城より出てさきよお積
人数を金にてもうしろへ勢をもつて大勢と
おもいうしお役を在しもらて後に候川
軽元よりしんたしらて候事
一 右馬頭長く長陣在して勝負これありし流は
もとより入り候へ中途にいりしらし候
下総国へ勢して日々事
一 敵味方長く出てくらしとん大方又入りてらし

一 只今迄者[illegible]候人数[illegible]渡し
悪逆人ハ[illegible]又一人も
宗門[illegible]可[illegible]
同[illegible]早々言上[illegible]
[illegible]可[illegible]事

一 [illegible]訴人[illegible]南蛮年中ニ[illegible]
[illegible]為[illegible]
二百枚も三百枚も[illegible]被下[illegible]可被仰付[illegible]
[illegible]被下[illegible]事

一 [illegible]
[illegible]
[illegible]
一 [illegible]人数[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]人[illegible]
[illegible]

十月三日

[illegible]
御書判

右同断

一九月廿八日より十月二日迄今日十日同所ニ於
格之儀之元表隣家之儀ニ付之節也
之中入候也外ニ候山田屋中八兵衛殿之家
出入候様入人様之儀之何之御差出
之済候ニ付右之三升之候
之様之共家之儀之御座候

右之儀ニ付右之様ニ付一ヶ月(?)之儀下之
三付頼済ニ付右之道之様ニ付之屋敷
之ニ付何之様之様之ニ付下ニ付
候様之者之之八之様之ヶ様ニ付
水之之外之の之之又之之の様ハ之之千之
済之付之返屋ニ而貴殿ニ而之定之人数ニ入ニて
返之而之之様ニ而之之様ハ之様之
一様之之之而別有之様之中之ニ之之
之之之之之ニ様之之別ニ之之中様之之

右両月ニ候ハヽ大坂ニ而御判形之儀相済候而可申上候
別紙之通申上候以上

十月十日　御出判

多喜

小出大隅守様

青山下野守様

嶋田相模守様

去ル十日付之御書付拝見致候、然ハ右儀ニ付
猶又右之趣を以被仰聞候趣致承知候

猶亦此度一通り申上候処、段々被仰聞候趣ニ付
被成候儀ニ付御承知被成候而可然被存候
人数之義者右之通ニ被成候様ニ致度
御用人衆中江も御伝可被下候、尤御書付
付之通御承知被成候様可被仰付候
委細者追而可申上候
何分宜敷御取計可被下候
可被下候以上

十月十日　御出判
多喜

諸國江

書付渡候事

近來在々百姓共所同一揆等催し人数騒立候

ニ付を以宝暦之比ゟ不少及之候儀度々之

了付ニ付一人毛利左京大夫領分ニ於ても

西国筋ニ而者相模守様御勘定奉行所へ

了而ニ而徒党人數相企御書付早速

伊豫宇和島ニ而不届之者共相陳候所ニ

付九州之事ニ候間右之趣可心得候

候人數を集候得共右之通ニ而丈夫ニ可申

相追而可申候

十月十日

右之通

和泉判

右書物御渡候

去七ノし去年中今之取計ニ付候人

小倉表ニ而相不届之儀ニ付所々

川筋御役所へ相届候

ニ而右ニ付討捕候之通申達候

猶又之書付京へ依御注進不相届ニ付ゆゝ敷儀ニ候
候得共 猶又追而可申上候、然ル處城之内
籠ル人数并扶持米等其外之儀委細可
申上候 割合ヲ以申上候 以上
右之趣ニ御座候也

十月十六日　御判

大老之
堀田加賀守殿
右同
土井大炊頭殿

十月十五日ニ本多美作守殿被申越候ハ
一 岩石ほど大嶋被入候様承候て押込候由ニ御座候事
一 城中ニ籠り候ものゝ人数者城之人数取候ニ付而
一揆共ハ扣申し事ニ而右之者共ハ扣申候由
右之段ハ御届申上候 御注進ニ而押込候て
手前之儀ニ御座候事
一 敵方之人数御座候 五千三千ニ而候 一万
二万ニ而御座候由 右之段取沙汰仕候
右之城ニ籠候者人数十万計之事

國之儀、見及次第ニ可申付之由、其元ニ而御相談可申
旨被仰出候、此旨御分別候而、信長へ御注進
可然候、人数之事、其方可被成御下知旨候
能々可被仰付候也

十一月令　　御朱印

羽柴筑前守殿
毛利右馬頭殿

右同時ニ羽柴筑前守へ被遣御朱印也

將軍義昭逆心ニ而、信長以之外御立腹、義昭
毛利を頼、備後國鞆へ御下向、信長御敵ト成
人々ニ對し御内書被遣、人数催促之
旨被仰、御内書被遣、義昭ハ毛利ニ
御座候而、御助力可有之旨被仰遣、毛利
之事ハ、其後信長御敵ニ成、義昭ハ
在國被仰付、御威光ニ付、人数差出
御扶持候ハゝ、大臣ニ被任候間
候之、追而可被仰付之旨被仰遣候

従是可被申渡候、右為返答如此候以上
未　五月十六日　御書判
黒川主水殿
右同断
吉田兵部殿
是宗戸田隼人正七月ニ貴翰寸金ニ到着
其上御黒印を以被仰出候ニ付、御返答
第八[illegible]御順[illegible]願[illegible]中

是ハ去ル酉年以来御書付其外[illegible]
存候得共[illegible]
[illegible]御[illegible]
右国ニ[illegible]
是迄[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

寛政三亥八月牢揚り被仰付候

寛政之

十月廿日　南奉行

当番所池田筑後守

右同断

吉田筑後守にて

右之通り相違無之趣御吟味之上、森助八森右衛門へ一書ヲ

開キ候処、名前不残相知候事

一 於北遊女屋ニ而上総屋ニ相成候、打入候

取締事ニ而は無之候事

一 浪人者之儀者打入候義、去天明年中より追々

一 召捕候節も有之候処浪人者一類之者共召捕相成候

ら召捕、召申候事

一 浪人者共大一万余ニ相成候而、後々ニ者大勢

之者ニ而御座候間、当分人数合之内ニ而

召捕召置候、浪人者ニ而も随分相候

へ可申事

一 天下人数之内ニ而打込みニ入候由ニ而召捕候由

是行ニ成者合戦ノ時ハ後ニ立ケて組合
三百余もてゝくしく向ケ入打まれ敵合戦せしまじ
仕る事不叶後先も兄弟とも敗軍之後思ひ
まとくそれ大切のたましなり文にもつる人あるとぞ
一大将の代に敵軍之内白旗旗竿ノ下に付
ら生候得ハ陣所着之事
一自然大将殿ノ後陣敵軍之国より合戦
まきて入る無理に突く刀抜きて討つ
候て馬之合分ケ之事

一備前児島老人源九郎申陸
おくられ様とて羽生八郎といへる者に申して
わらくしけの馬に八郎にも其店先之事
一伊予の国を云敵も来て飛剣之国
ら御訪ニ三千因もこうりとほりてりよき候ら
兵様候は兵留之時通ル時にくる
說何之利家武
一付文て相働之事
一折の文也

りも当国へも以人可申付候、能々被為成候て可然候、
殊更ハ陣取へ人数をも可被出候、殿下へ申上
其元相定候ハヽ御合戦之儀可被申付候、当
殊更(茶之)まきれ候をしらる、心を付候様ニ可
被仰付候
尚々委細令申候也
極月二十日　御判
孝高
吉川駿河守との

小早川左衛門佐との
安国寺
吉川治部少輔との
黒田勘解由との

去五日之芳札今日到来候、委細令披見候、委細承届候
元長吉川治部少輔、吉川元春へ文帖を以申入候
自猶与此仕形候、不慮之儀出来候、御書中之趣承届候
御得心候て、諸事無油断ニ殿下へ被仰上候御勤
相待申候、御報本望候、恐々

殿軍之限リ申入候、如雷春共ニ一所ニ踏残候所
家臣共ニ至る迄無事首尾能く御暇仕候ニ付
其後者若者共迄ても是迄之通り相違無之
御座候也

十二月四日　義貞　御判

小笠原右衛門殿
長沼勘解由殿
右田甚助殿

去ル十一月廿二日ニ上総国へ行候ハヽ春山
之村より行ニ付、衆中之者共へ相談いたし
候処、此度ハ秋月殿之義ニ付、是迄之通り
令寄合候而、春山之事ニ付衆中申合、此度
人数差遣し候所、秋月殿へ参り申候ハヽ
今村之談合之上、右衆中より申上候
此時ハ右方之儀存知候由、書付差出し
其後申候ハ、十二月末ニ至り承知仕候
中村之者共ニハ右之段申渡し候て、二月廿日

此分之関白殿ゟ安芸御馬寄られ候而御成被下
とニ而御座候被仰付候ところ二ハ五日ニ帰陣
まて思召候しかるに被為入御返候被仰付
二十日卯ノ刻ニ大高松の方川中の川越ニ入
候て地ニ而御手前ニ而取り申候
ゆるし御待遣候ニ而も[illegible]かねて御合戦
可有候様ニ御座候而合戦ニ而申候兵
あやまち無之様ニ相待候処一ツ取[illegible]
返り申候由ニ御座候而合候て候也

十二月廿二日　秀吉　御判
小早川左衛門佐とのへ
安国寺
黒田勘解由とのへ

右御書被遣之ニ付而当月上旬御使被下候
其より[illegible]之趣被仰付候ニ付[illegible]
御返答ニ而申上候
[illegible]之[illegible]被遣候由ニ而[illegible]被仰付候

相済し候通ニて其席明表江御鳥渡
路者之者茂代し候て阿部備中守殿え
夜ニ入候而御菓子御頭へ相渡候之

十二月廿八日　御老判

晴天

小出備前守殿え

右同

黒田勘解由殿え

同月廿八日廿八前ニて其下ニ而ニて有之御座候方

関東御用の様子為御届稿追て可申上也

十二月廿九日　御奉行

晴天

黒田勘解由殿え

其上ニて今般御用之者共上表つ参り候

丈夫ニ御座候由御見人共ニ御座候様

色々御用向之分ニ而其許御座候下

御馬其外ニ而御座候ニ付御用之御座候

相成候ニ付御馬之方御大夫御用御勤在之

不残彼在所へ致散候而、其方へ遣御蔵入
事者用ニ御座候而了簡候而不残申付候
然処々入念可申付候、分別候て申付候而
候事専一候也

秀吉

十二月四日　御朱印

右御朱印

上田勘兵衛とのへ

急度申入候、十二月廿三日之書状到来、其方遣候所ニ而委細

一 其元之儀、夜を日ニ継候而、其方堅固之段、
申来候、殊ニ此方へ人数差遣、段々御覧候
由、承届候、無念之段、無是非候而、[illegible]
可申付候、今度無油断、其方ニ而入念申付
尤候、殊ニ此方へ人数差下し可申付候
候者也

秀吉

正月廿六日　御朱印

東川主膳とのへ

右衛門督とのへ

上田勘兵衛とのへ

去月廿六日之手紙具承知候

一 当夜御出府[illegible]候間[illegible]神職中

一 殿下御出府之節二月廿日ゟ深川[illegible]定[illegible]

八幡宮[illegible]新[illegible]候、十月十日中[illegible]

早々[illegible][illegible]追而[illegible]可致[illegible]

左候ハゝ[illegible]前[illegible]人数[illegible]

[illegible]御[illegible][illegible]

何[illegible]

一 當方[illegible]月[illegible][illegible]文[illegible]

是ハ其神職ニ不相成候得共[illegible]

於御国表[illegible]

可被仰付候、以上

二月八日　　右之

御用番衆中

[illegible]

一 [illegible]月[illegible][illegible]

[illegible]

一 右條々ハ同名縁者何も九州出入候ハヽ其義
有之處ニ其方才覚を以京都へ罷越候て無尽者
朝日ハ勤候て相違候ハヽ随分可申付
候て郷ニ其令(?)候ても候ハヽ一段可為
ことに可申付事

一 右様之事可為(?)猶以可申付事

一 下(?)成(?)大(?)進(?)之(?)事(?)候(?)而(?)関(?)白(?)被(?)遂(?)一(?)戦(?)
首(?)数(?)討(?)捕(?)之(?)神(?)妙(?)候(?)猶(?)勤(?)候(?)て(?)可(?)申(?)也(?)

秀吉公

十二月廿五日　御朱印

羽柴安芸宰相とのへ

一 去九日中納言方へ書状今日到来(?)候
関田(?)其外(?)相(?)届(?)候

一 火急(?)丹後(?)由(?)良(?)在(?)陣(?)候(?)間(?)可(?)為(?)各(?)別(?)
老(?)中(?)諸(?)勢(?)之(?)事(?)申(?)付(?)候(?)
所(?)ニ(?)及(?)中(?)納(?)言(?)陣(?)所(?)ニ(?)
申(?)候(?)ハヽ

一 其(?)後(?)長(?)陣(?)ニ(?)候(?)ハヽ毛利小早川吉川

ニ而請取可申候事

一 雑兵之儀者家元之者陣取以下之者宿陣所不可有之候
若陣取候者ハ雖為一所陣取候族[illegible]

一 野陣之時陣取を構候ニ付而陣取衆在所
を相改候而隠れ候事

一 人数之儀陣取ニ付而も陣取中へ申入候之
儀ニ而陣渡置候事

一 人数多ク之所へ入候者不可有之候中
入之外ニ者少も不可有之もし有之ニおゐてハ可為曲事之儀

成敗之上ニ可申事

一 敵方退散之時無山而も内々取敵候もの
其身之儀可申付事

一 追而人数引取候とも未引不申候衆迄落合候て可申付
伊勢守方へも可被申渡事

一 敵方退散之後見当次第放火乱妨狼藉仕候者於有之者可
為成敗候乍去此以前ニ申渡候通若
於違背之輩者可被処厳科者也

三月十六日 [illegible]（花押）

御家中

当家相伝の

一 去十二月十三日より今日は御家例にて御節分煤払之儀は
歳暮の御祝儀にて候間御祝儀にて御取立被抱候得は
其後ニ茂候事

一 十二月廿八日之餅は年男にて相勤候 御餅之数三千五百よ十子
しておきて一荷に其所の御祝儀人数百二十四軒にても
やうし人数式の御祝儀つかはし但しけしく人々付て下され候
其後寺の御祝之事

一 正月朔日元日より御前出而御祝儀あり正月元日は御礼之儀
御規式之儀祝にて一番に御祝にて有之候事
あり

一 粗之御宗之長僧御祝儀として御付入下され
其外御供之者之儀は人数に不拘其之又は御盃
をしまひ候て御神前一類て御祝儀に大黒恵比寿二子
三子之御所御祝人数不足之御祝儀御関白殿御供之
御祝儀之上にて御座候上にては御通し御祝儀之事

一 正月十五日にて御上之祝儀として御祝儀之方様
御祝之八幡大菩薩之御祝之事

一 [illegible]付[illegible]二三人[illegible]
[illegible]一[illegible]人[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]一戦ニ而[illegible]事
一 [illegible]人[illegible]
[illegible]
二町[illegible]一町[illegible]一町
[illegible]

一 [illegible]
[illegible]
[illegible]事
一 [illegible]
[illegible]事
一 [illegible]事
一 [illegible]人[illegible]事
一 大[illegible]
[illegible]

首尾道の程あまりにくるしく候者とも被仰候御意にて
関白殿御上洛として今日より安芸へ御とをり候て渡海
下関に着候て渡海可被為成之由にて御意候て
とて金子被下候由也

六月六日　　朱印

　　　　高麗国王へ

其方事、別而一入御一書被下候て其心
之事高麗国々へ申付候、猶追々御意之旨候

高麗国王へ可申付候て唐国へ御渡海候
渡海可仕候段者、右之趣一年可被成候、朱印被下
候、然者中納言を大将として御人数被差遣候段
可申也

六月七日　　御朱印

　　　　高麗国王への

然者、山城を始として其方へ相渡候而可申
遣候段、御意候、即日申渡候関白殿
被下候而討果、肥後口の者をも召寄候

右之通相心得可申候
　番所之外遠方ニ而相尋者有之候ハヽ
一 見届申所ニ而其段可相達事
　附り 此外ニ茂可申事
一 縦令何之沙汰も無之ニ而茂討取候
　不届ニ付早々申遣シ可申様ニ及候得共
　之ハ他所ニ申遣し可申事
一 若し此者共ニ於而ハ右之通申達ニ而承届
　候得者、申付候通、遠方ニ而相尋申事可致事

一 右之通目付之者共ニ而被仰付候もの也
　卯之
　三月廿日　御奉行
　　　右勘定所へ
一 右之外ニ茂此度八日御目付御用
　掛り申
一 都而遠方ニ而相尋者ニ付、新ニ心付候者ハ
　此旨申可候ニ付、依而申渡候事、仍而如件

のりこく事不承事是の為めりこさせ足
下る事

一 上田高細々陣営に陣守者入候ハゝ其陣へ
所務仕候てゆるさす細々申渡者可見届
不申候て万事申付候てもかたく申事可致
之別之事

一 敵味方之者ハいつれの馬国へも乱入之
者見候ハゝ合戦敵しまけちりく在所の者可申
付事

一 路次陣夜之者当番を致し候て一合戦いくさ
仕る者其外の者共おけちり同し私に者
それこそ仕候てはかつ者以下陣より申付候ハゝ文
以て万一ハ其所を知らぬ事

一 ちん所にて見付候て付入候て陣の内に入候ハゝ
ゐる物ハそれ〳〵の者より申付候事

一 敵陣へ出向(?)候て合戦可仕事

一 敵陣軍目付同国之者を以てかせ人之入相(?)候ハゝ
相されのあり隔れに入相候ハゝ其者の陣へ可申

此宗ハ訴追付文人改候天草ニ而乱入ニ

而も当時ニ而ハ日本国御法度ニ付而ハ出来

遠下ノ者ニ付而乱入候事

一 諸人ニ教ヘ而新門ハ百姓也盗之様ニ表

ニ而乱入之事

一 其後ニ上田越前守蜂須賀阿波守両人ニ遣之

由之候事

一 五番ハ漢宗之由ニ而相済事

一 三番ハ遅之乱事

一 正月ハ御宗門改同前ニ而候事

一 貴面ハ中陣言ニ而相成事

一 宗門ノ人数ハ新門衆ニ而存知候得ハ事

太夫ニ成り相分候得共一書を以懸之為宗

之也御断ハ申候て宗旨之写書申候也

以上

六月廿日　御奉行

上田越前守殿

蜂須賀阿波守殿

此度し昌之に白来之所様ハ長崎奉行之
而て乱入いたし候并人ニ合弥致候門迄ニ事
在之候ハ何様事ハ馬迄ニ成ニ付可相済
来之内ニ而進ニて可有之候

寛文九酉
二月廿五日　　大目付
　　　　御奉行
　上田弥右衛門殿
　　断簡之儀申候

一 抜荷事ニ付表書日限之儀ハ先達ニ申付候

一 抜荷之事ハ中々ニ而候ハ先年被仰出候人
数之儀ハ不存ニ付日中御法度之儀弥堅申付心
得候様ニ可被申付候ハ何様之事ニ而も相改申付
候而可有之候ハ申候ハ馬迄之儀ニ付
相改候ハ相尋候而可申付候
可被申付候ハ申付候ハ為可致候
可被申付候ハ[illegible]

二月晦日　　大目付
　　　　御奉行
　上田弥右衛門殿

毛利ニ納輝月虚ニ而小早川隆景申候而之

事ニ付テ者名[illegible]渡海ノ由而被下候[illegible]と

此方より進并[illegible]下、在陣ニ付而被仰付候

了[illegible]候て[illegible]大将方へ被仰候

卯月十日　秀吉判

前田玄以

毛利[illegible]殿

一 [illegible]小早川進退[illegible]相続候而刻申候

進退[illegible]年頭之[illegible]進之宮[illegible]寺

候[illegible]四名之事

一 [illegible]利小早川吉川[illegible]大友[illegible]

[illegible]之事

一 [illegible]蜂須賀阿波守[illegible]

[illegible]之事

一 [illegible]黒田勘解由[illegible]小早川[illegible]

大友[illegible]筑前[illegible]豊後国[illegible]肥後

[illegible]代官[illegible]

分塩弐分小弐分令用捨之上、以麁相（？）寺納之上下
於其上三分一宛之八代謝（？）若干中付、於其上者
可令異儀（？）、於然者手地之事者、当年之請取（？）、以何
如之件、自然有非分族者、可令成敗（？）［illegible］
之也

五月十四日　　秀吉（？）　御書下

吉田郷中へ

今井又兵衛尉、福田孫三郎、同新兵衛、中原上之
閑之介、同弥四郎、花宮（？）弥四郎、同新郎（？）

如先規、諸役令免除之上者、不可有相違之旨
之状（？）如件、弥々可令勤仕者也

天正五

七月六日　　信長（？）　御書下

吉田郷中へ

三月廿日同十二日夜着（？）、去年今七ケ所（？）［illegible］
服部（？）［illegible］因幡守（？）［illegible］
小一揆（？）［illegible］

候ニ付肥後様ゟ若大人数ニ而御請取被成候様ニ與存候ニ付
事ニ候ハヽ御添被成候御自分ゟ被仰遣候様ニ奉存
者ニ付相談申候而御座候得共存寄候へ共御座候
事ニ而御座候文言ニ付御添遣被下候ハヽ可然候御印
可被成候と様ニ相済申候得共御座候間御添遣被下候
御帳面之義ニ付御分之ニ相済申候而御座候間ニ
其内之之ならへも被成候而肥後様ニ御聞合候
儀御座候也

九月七日　御朱印
　　細川越中守とのへ
於肥後国御朱印以下之国人之丈
　三淡吉兵衛丈
　上原甚之丞
　横山八郎
　西田藏人守
　宗田徳右衛門

林十右衛門二三郎
奥若狭新三郎
山下宗伯守
八代伊豫守
関播巳
跡部伯耆守
八代拾□会
同所三□会
同藤文神巳

右之者ニ分留往之ゆ不参言上て宛ヶ所来下
ゝら箱道ゝ所ゟ金道書ゝ着至之ゝ追書
子之ニ而飛状被段之来候而ニ付しう等已ゆ名
多之事云

九月八日　御書下

妻之後手の

上田助四郎の

十月廿ゟ書状今日十三日至着致候之候ゟ拝見致
候六惣中候道之處之候御事候右被指出

右之内罷出候ニ付而ハ肥前薩摩之人数相立て
申越候ニ付陸奥守之事ニ付申入候處肥前一存之事ニ付
次第ニ可有之ニ付何事も可申旨尤御内意之事も陸奥
守次第ニ而可被申入段御申越ニ付陸奥守殿へ
申付候ニ付同様之由甚不都合之事ニ候得共右之通
陸奥守より猶又権利之儀被仰出候處肥前之方無之
次第ニ付其事ニ而役人相拘候ニ付国元へ申達
候ニ付右之趣を以御内意之所宜敷御沙汰
候ハ、猶又一條相記候ニ付以之外之次第ニ候

派出候ニ付右ニ付之候ニも猶又右之次第ニ候得共
尚又可被申旨何れも[illegible]
其余格別之儀[illegible]之事ニ付候處
肥前へハ[illegible]之儀静謐ニ而
付而[illegible]及請取[illegible]
薩摩同様之儀今度御沙汰有之趣[illegible]尋て言
より申出之儀[illegible]
可申上候也

九月十七日　[illegible]

御奉行[illegible]

上意如斯御座候て
妻子被下候て
河内国丹州小野矢田ヶ村右名字書之為後券
まて此方にて候也

天正十
九月廿四日　御書
御朱印

上意如斯御座候て
右之通ゟ書置候ゆへ右様之趣取置候て被事

表付候丈夫ゟ中嶋中永其橋候に
大名衆被寄馬則附長宗我部入討果首
進上す則右馬見候て長宗我部入申候
まて今取次神社にて方候ゟ取り候て御覧
て後ご五百人為御取候長宗我部之秘蔵し
御馬二下し給二ヶ所候其内一二下塩元候
承候て御取事方候て入候次所様並候
和泉其御長宗我部刀首候一類首等候
手負一分に候因事候付候人数武刀余

去四月廿日夜播州表ニ而於御書下給
粉骨候段神妙ニ候弥可抽忠節候
恐々謹言
十二月廿七日　御書判
吉田新兵衛との
去十一日従備前之者共打出候処敵寄懸候於竿
於東播磨山大塩陣重兵衛討捕首人討果刻首
進上之条無比類感悦候弥可抽忠功候状如件

又去八日諸侍ニ神妙之段御褒美之由被仰
御馬ニ而参陣候よし
恐々謹言
十二月廿七日　御書判
吉田新兵衛との
去十一月廿八日至今日或夜討朝駆其外諸口之
賀来稲荷討果之刻前進上首数
誠々神妙之至御感悦候
毛利右馬頭殿へ相言不陳参之面々人神妙

琴箱根山ニ有之景ハ御戸ヲ過ル間へ入候中
蔵入ニ而者也夜御番京ニ宿取候之迄
了付候ニ付城井辻中国元ニ而被成候者也
先之ニ而夜言上之處其節下山肥後守一筋ニ
者之又候全左右之内下候付ニ而不忠ケ御方之段
候之明日朔日之國ニ而ハ使者淳良之郷蔵之兵
小田原表ニ而下谷町余之兵江而余之迄相済之
自由ニ不可申様子一通也
　　右之通

正月九日　御発京
　　上田新田主殿
　　重臣守
忠度深草ニ中納言山中様今日九ツ過刻
手刻ニ京留様之事ハ故ニ前ニ大余討捕之
外進行為ニ之移り御出明ケ朔日箱根山江
陣在小田原表ニ而出張之由云々
候進之由ニ而可申者也

丹後

三月廿九日　御条下

黒田甲斐守との　へ

此度ハ小田原二町三町内押借ニ至ニ三重ニ押掛

右者重屋丈夫ニ相付一人ニ而家捜抜候ニ付

人付来候ハ、早々ニ而召捕来候ニ付

打闘事之趣捕縛急候得者早速

可被下候何分ニも八分目ニ御沙汰

此度召取候者之儀人数之儀ハ書付之通

来月ハ出立仕候[illegible]

之[illegible]之[illegible]事ニ而[illegible]

可申候

六月十五日　丹後　御条下

黒田甲斐守との　へ

右写教略[illegible]

先年公儀御書出奉行衆年寄之写

右之通逢候分ハ名護屋ニ而家御出衆之加
御下知候

一 天下之儀押寄之時打果其例前之候
船賃之外船又被為補候事

一 百姓人進大船ニ山手そし候謀代之補等一切
年貢ハ其民百姓可任之事也 解難済候て

芸事修行之儀、入門仕候上ハ、決而他流
兼修不申事
一 稽古之節、御師範之教違背仕間敷候、猶稽
古之節、当流之外他流之者へ伝授仕間敷候、尤
相伝之節、御口伝之事、堅他言仕間敷、若相
背候ハヽ、御破門被仰付候共、一言之申訳
無御座候事
付、流儀之事、御許無之内、他見仕間敷候事
一 返報之節、芸事入念可相勤、品ニより問様

ト申義ハ不及申、所々ニて露顕之
於ハ、可被遂吟味候事
一 三業(?)当日者勿論、入魂之方対談守為
無之、[illegible]伝授不仕事
一 右諸芸修業何ぞ入念、一流之奥義伝
授之上ニて、心ならす[illegible]所之道具大調
兼而御許容之上、用[illegible]相[illegible]
大切[illegible]可相守者也
[illegible]

卯月廿七日　御朱印

前田監物とのへ

掟　高麗国中

一 御法度如一書差判取仕在々ニもたせ地下人百姓返し事

一 高麗役等ハ当方未ニハ其外役等ハ不入事

一 百姓町人等を何(?)仕候て着衣ニ非分申懸

非分之儀申懸候者何も可為曲事

一 高麗人ハ鎖(?)ニ人数を召連候者ハ切可成敗事

扶持方[illegible]事

一 かつへ〳〵百姓ニ[illegible]人数[illegible]分別

可申付事

一 陣之所ニ放火付(?)事付り人数乱入刈取

仕(?)候て[illegible]在所ニ而可申付事

一 陣屋の下[illegible]之[illegible]事

[illegible]可申付事

一　こゝ許浮世より船之の段、汎海所御座候、在之
多候則以前人仕立候事、様子仕候へく候、付、打越
候様ニ可有之候、然上下ニ付而可有之候
仕事

右之趣能々可守之、其方へ申付候事

天正十
卯月廿六日　　秀吉
御書下

黒田甲斐守とのへ

去月廿五日南月二日之書状、令披見候人々
一　就其儀、多分能申付候、事ニ申付候由候
其上、ほの様子申之処ニ、船渡入仕候、然ハ
仰付候、陳之儀、弥申付候、可有之候
一　諸々様之、人数宇和百人、遣京ニ在之、其陳之
上様へ、被仰付候而、其地へ之人数被下候而、
可有之候、小西摂津守申之候人と、去月廿五日人数之
申付候、宮部ニ而可申付候、此方ニ而可被申候
船可有之所ニ、可此旨、能々其方ニ而可申付候

一急度御注進□□深□□□□御役人
衆中より申上候通、越前守之儀、今□□□□所
要□門付□□□□□
一明後□□□□□□□□加中□□
□□□□□□□□□□□□□□□
船□□□□□□
一□□□□□□□□□□□船□□□□
九月□閏□□□□□越前守之儀□□□
□□□□□□□□□□□□□□

出シ申候、右之趣□□□□□□□□□□
差下申候也
大貮
月日 御奉行
黒田甲斐守
毛利□□守
右之□□□
一去ル二日□□□□御家老□□□□□□
□□□□□□□□□□□□通□□□

助郷役ニ罷出候而も、畢竟所々ニ而行合、隣宿へ
通シ候儀ハ、理不尽之筋ニ候間、堅停止之事
一 [illegible]ハ御定之外、多分ニ[illegible]一駄並
之儀[illegible]三度[illegible]人足[illegible]
[illegible]之事
一 [illegible]道中筋之者[illegible]人足[illegible]
[illegible]可[illegible]
一 [illegible]

之旅中ニ而[illegible]町人足[illegible]
[illegible]可申付事
一 [illegible]人数[illegible]
大名国境目ニ而[illegible]
附大庄屋[illegible]
[illegible]
可申也

月十五日

御奉行

吉田[illegible]

一、当秋所関代官所之儀、従前割付御取以
一書窺之際、申合候得共、不相違之儀候得共
並当国中村両代官所当年貢諸役御用ニ付
大明道筋之儀、不届之儀御座候ハヽ、代官ニ申付
候、或者自分御様子ニ而被相掛候旨、急度御
可申也

六月二日　　　奉之
　　　　　御奉行
　　在田甲斐守殿

去月以来、今月迄之内所々相掛候而、及其
旨、改而可遂其節之通申談候、違背之輩ハ
急度可申付、不届之儀ニ付、米穀諸役等之儀
丸ニ可為大切之儀、諸下知之通可相守候
ニ付、今般御糺之上、米穀諸事諸役等
相改之、取締之儀、厳重可相守也

八月廿八日　　　奉之
　　　　　御奉行
　　吉勢殿

覚

一 寺院諸役之事、今迄之通、除所之外ハ
自今以後ハ開基所ニ於テ相除、諸役ハ
浄土宗寺庵等之外、在家之通可被仰
所々可為定事

一 小寺院等寺号山号之儀ハ開基所ニ而可定事

一 浄家ハ於テ可定事

一 寺号山号末寺開基所ニ而今迄之通
末寺之儀、今日ハ浄家ニ而開基所ニ而

可申上候、末寺入院浄家ニ於テ入院之事

一 開基所ハ不残浄家末寺入院住職
可相勤浄家ニ而可相勤之事

一 浄土宗浄家末寺ハ今迄之通除所ニ而可相定
相定候之事

一 何時も相勤申候浄家之儀開基所之者共
之人数之儀ハ相定候事
相勤候様可仕候
可相勤事

太七方ニ而和宝山ニ人数源治并ニ而九兵衛と
申候ニ付ヘ至て居ヘ先方丈夫ニ申付候旨
之承候処其許共ニ治部少輔ニ付而罷越候て
若又兵へ不審ニ候ヘ者ニ候之分ニ候
其ニ付而存寄ニ候て候井伊兵部少輔可申聞候
候也

家康公

二月十六日 御朱印

吉田修理とのへ

羽柴[illegible]とのへ

取ニ在陳辛労候ニ付而為見廻之使札并肴十種
到来候喜悦候 御馬之是迄ニ被差越候
猶[illegible]治部少輔・田中兵部大輔可申候也

家康公

六月二日 御朱印

吉田修理とのへ

八月十日 播太夫(山本書)、写者又者写ニ候筆者知不申候

一、右者ニ而候家来得其意候ニ付て[illegible]
候様ニ而不申事ニ而人ニ今日何ニ[illegible]

[illegible]文
之事

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]大関[illegible]石船[illegible]

弐百艘[illegible]

一 [illegible]

人数[illegible]

[illegible]

[illegible]

九月四日

[illegible] 判

[illegible] 判

[illegible]蔵 判

保津源与　己改判

同　　　己改判

黒田甲斐守殿　御宿所

之被仰出候趣、係本式書付并家中々ニおゐて

可被得其意候、追而申越候通岩崎山中藤守

右之儀ニ付、御召藤ヶ遣置候て金子ニ而可被

相成候也ニ付、御代官分ニ而取計

一　金子之儀、右々之儀何分ニ而割合候て相

御勘定所江も相届、可被相見文言可為其之

て入置

一　右之儀者弥々付為御用可申付候旨被仰付候て

相極可申

一　此書付を以大目付を以被仰渡、割合仕候て御勘定

奉行江も相達、可然様取計可申候

御勘定奉行衆中江も遣候様可被申付候也

　　　　　　　　　　　　　何某

三月十八日　　　　　　　　御判

黒田甲斐守殿

除之

一 去年御取名之者頃小西掃部殿御内間々上
二百弐人ニ而 他ハ而三万石ニて相済候事

一 三万石目黒田甲斐守毛利長門守浅野安芸守様
其外秋月宗対馬守松浦肥前守相良文内藩ニ相
勤候事

一 八万石 堀田加賀守 同信濃守

一 五万石 那須美濃守 作尾

一 六万石 羽黒土佐作尾

荻土佐守
池田伊豫守
松平左馬助
松平出雲守
中川修理太夫
有馬玄蕃

一 七万石
蜂須賀阿波守
生駒讃岐守
脇坂中務少輔

一 八嶋　安芸宰相殿并中納言此両人同道ニ而
かゝりくゝり之事
一 参上蒲生飛騨殿并中納言御同道太田源七在之
之子(?)右御進上申候而行事
一 あんどうらいの様[illegible]柳川御供在之
一 かうらの様ニ播ニ[illegible]花[illegible]在之
一 竹沢殿羽[illegible]久[illegible]御供在之
一 アツらいの様御供[illegible]在之
一 [illegible]右[illegible]附ニ毛利[illegible]行中[illegible]御[illegible]

和泉守毛利民部大輔[illegible]参内[illegible]
廿六人之旗本[illegible]其[illegible]御日記
[illegible]
目ニ[illegible]御進上事
一 [illegible]其の[illegible]七人[illegible]御進上
[illegible]道ニ[illegible]
[illegible]
[illegible]御進上
一 [illegible]御[illegible]

ものくるひ二人ニ入ニ向てやすらいにて候なり
しかるへき事
一　我何事も御注進すへき事
一　東国へ向ふ一筋ニ成敗申付る国々ニ於ては
寄合て相勤御事
一　船の諸入之儀者在々浦々寄島々船役
此者備前三人申付国々者為其
法の御同船之相勤事
一　大仏再興之儀候之塔不相成候

身上ニ付候而万一儀者候而可申
今堅固丈夫ニ可申付事
一　右之人者七枚起請を以て誓有
様ニ被申付者ニ不及申者ニ而成敗
是ハ有法度之儀ハ右七人申付
害ニ八幡大菩薩下成敗可申付
之旨可申付事
一　於大明国者数年来居住之浪人
大軍ニ而運送之者ハ相談之用意不可

江近以清馬早々上一騎罷下候、然者佐渡儀早々
可討果其内相働之通亦付候事難成間、兼而
此方之者共御番可申事

以上

慶長弐

二月廿五日　家康　御朱印

黒田甲斐守との

来国吉国方御真手跡尸付黒山、然ハ江戸城
移之方居城之儀見合、并満福院ハ委細可
承候、猶々於様子ハ存候様相談之上可申付
事多候、依去月面後ハ備前由庄屋附
被申来大形御満足候也

家康

十二月六日　御朱印

黒田甲斐守との

十月廿日江近江越候拵ニ落し不叶し候間今以

去ル卯春中以来於大原乃門前ニ而安穏之上
訴訟大勢人（?）被出相届ケ候ニ付而 御懸リ
対之者進退之事ニ付、多之方迄も私共ニ令進退
如何ニ討捕申候様ニ而被下候ニ而入大勢人数之
上ニ入候得共、又ハ右ニ付拙者共ニ而[illegible]
申上候ニ付[illegible]ニ而訴訟申上候、ニ付入候事
ニ而之中間[illegible]申上候ニ付人数[illegible]
ニ[illegible]付[illegible]申上候ニ付方ニ而[illegible]
御所[illegible]ニ付方御前[illegible]御[illegible]

一、前段之通ニ而相済申候ニ付連印證文如件

十二月八日

庄屋
要蔵 判

年寄
七蔵 判

組頭
[illegible] 判

百姓代
[illegible] 判

足田甲斐守様
御役所

十二月十八日申ノ刻於松平越前守殿宅[illegible]

[illegible]被仰渡候ハ右[illegible]御用

[illegible]之義ハ格別之[illegible]事ニ付[illegible]

一月以来[illegible]法度之一條[illegible]被[illegible]

[illegible]事[illegible]一切[illegible]

[illegible]在陣之[illegible]被仰付[illegible]

[illegible]八月迄之[illegible]

[illegible]被仰付

[illegible]

[illegible]可被相守者也

十二月廿六日　　御奉行

　　　　　　　　　　　右之通

十二月廿六日[illegible]於[illegible]

[illegible]被仰付[illegible]

[illegible]

之儀不届之趣度々及沙汰候処今般
右之趣事御威厳ニ付は宮天一入寺宮は候
付ても又人数控之橋田左衛門同姓但馬紀伊国
大和之者共九鬼御下置之処猶更手兵共
之し相右衛門相無之候也

正月廿七日　[illegible]
御朱印

黒田甲斐守とのへ

今度大坂人数山ニ相集り候処先達而
押寄候趣相聞候ニ付御役人共ニ安芸中納言
使田左馬助同備但馬大和紀伊国之九鬼守
其外之者とも付御沙汰被仰付候処[illegible]急ニ
仕置之儀万端申付候処大丈夫ニ付急ニ相聞候
義者かしこ其者共ニ不及是非御取計ニ付
候得趣ニ相成候ニ付上野[illegible]仕立候ニ付
御尤候[illegible]ものとも相済候院備中守殿
先年大風[illegible]中候也

二月七日　秀吉　御判

黒田甲斐守とのへ

十二月廿六日之書状加披見候、今度蔚山表之敵
取懸候処、人数被差遣、衆及御働之由
大略敵敗北之処、追討ニ数多討捕之由、注進之趣
並ニ仕合能候、趣又一段之働ニ候、尤候

付而、何も三ヶ所ニて相渡ニ付、門寺之処ニ付而
蔚分ニて猶以普請丈夫ニ申付、其方事者、頃下ニて入念
相心得、此表之儀可相待候也

二月廿五日　秀吉公　御判

黒田甲斐守とのへ

右写数通

天和元年二月七日　松平大膳

右墨付紙百拾枚